

大腸がん(結腸がん・直腸がん)予防・検診

1. 発生要因

大腸がんの発生は、生活習慣と関わりがあるとされています。喫煙、飲酒、肥満により大腸がんが発生する危険性が高まります。女性では、加工肉や赤肉の摂取により大腸がんが発生する危険が高くなる可能性があるといわれています。

また、家族の病歴との関わりがあるとされています。特に家族性大腸腺腫症やリンチ症候群の家系では、近親者に大腸がんの発生が多くみられます。

2. 予防とがん検診

予防 01

がん全般の予防には禁煙、節度のある飲酒、バランスの良い食事、身体活動、適正な体形の維持、感染予防が有効であることが分かっています。運動は大腸がんの予防に効果的であることがほぼ確実であるといわれています。食物繊維やカルシウムの摂取も大腸がんの予防に効果的である可能性があるといわれています。



がん検診 02

がん検診の目的は、がんを早期発見し、適切な治療を行うことで、がんによる死亡を減少させることです。

対象者は、男女ともに40歳以上の人で、検診の間隔は1年に1回です。ほとんどの市区町村では、がん検診の費用の多くを公費で負担しており、一部の自己負担で受けることができます。がん検診の内容は、問診と便潜血検査です。便潜血検査では、大腸がんやポリープなどによる出血が便に混じっていないかを調べます。通常、便潜血は微量で目に見えません。また、2日分の便を採取します。

検査の結果が「要精密検査」となった場合は、必ず精密検査を受けましょう。精密検査では、通常、大腸内視鏡検査を行います。

がんは1回の検診で見つからないこともありますので、毎年定期的を受診してください。また、急速に進行するがんもわずかながらあります。便に血が混じる、便に血が付着する、腹痛、便の性状や回数の変化など、気になる症状が続く場合は、次のがん検診を待たずに医療機関を受診してください。

